

# 身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

## —タイトスカートについて—

### A Survey of Measured body size and Redymade Clothing size —On the Tight skirt—

中 野 慎 子

#### 1. はじめに

消費者は既製衣服の購入選択に際して、身体に適合度の高い衣服を購求しようとする。こうした衣服を購入するには、消費者にとって品質表示や取扱い絵表示と共にサイズ表示は極めて重要である。ところで、既製衣服が身体に着装することから消費者の身体寸法をどの程度カバーしているかが問題になる。そこで、今回は特に身体に最もフィット性を必要とするタイトスカートについて、着衣評価のアンケート調査と同時に、身体計測、および、着衣している既製タイトスカートの衣服寸法を計測し、身体寸法と衣服寸法との関係、着衣の現状と適合度について検討を試みた。

#### 2. 調査方法

##### (1) 調査対象

被服専攻 学生 275名

回収率は100% (275名)であったが、記入不備の者が5.1% (14名)あり、有効回答数は94.9% (261名)である。そのうち、既製のタイトスカートを所持しない者が2.2% (6名)あり、今回の調査から省いたので実質調査対象者は92.7% (255名)である。

##### (2) 調査期間

1989年6月上旬～1990年7月上旬

(3) 調査方法

①身体寸法の計測

身体計測の項目は、スカートに必要な基本身体寸法ウエストとヒップの他に身長、バスト、体重の5項目とした。

②衣服寸法の計測

衣服寸法については着衣しているタイトスカートの寸法を図1に示す部位について、項目設定をした上で計らせた。計測に際して巻尺を使用。ウエスト回りはベルトつけ位置でホックからホックの止まりまでとし、前と後ろは脇縫い目を基準とした。

③表示の現状

サイズ表示、組成表示、取扱い絵表示、その他の表示について調査用紙に記入させた。

④アンケート調査

スカートの所持枚数、および、着衣評価について調査用紙に記入を求めた。

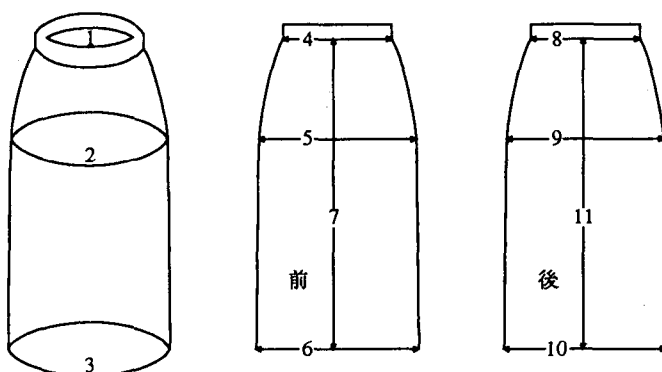


図1. スカートの計測部位

### 3. 調査結果、および、考察

#### 3-1 スカートの所持状況

スカートの所持枚数を種類別に調べた結果は、表1の通りである。一人平均約15枚のスカートを持っており、タイトスカートは平均6枚で最も多く、次にギャザースカート、プリーツスカートの順に少なくなり、フレヤースカートが平均1枚と意外に少なかった。

タイトスカートは98.7%の高所持率でほとんどの者が所持しているが、うち、自家製作のものを着用して、既製のタイトスカートを持たない者が1.3% (3名) いた。また、活動的でない、

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

体型に合わないなどの理由で、タイトスカートを所持しないが1.3%（3名）あった。

表1. スカートの所持状況（単位：枚）

項目	Mean	S.D.	所持率 (%)
タイト	5.9	4.4	98.7
セミタイト	1.0	1.1	58.7
フレアー	1.1	1.6	50.0
ギャザー	3.4	3.4	91.1
プリーツ	2.1	2.8	67.2
キュロット	1.4	1.5	64.3
その他	0.1	0.6	6.4
計	15.0	15.4	

3-2 身体寸法

身体計測の結果は、表2に示す通りである。また、JIS-L-4005-1985改正成人女子用衣料のサイズ規格の解説<sup>1)</sup>「表3.1 成人女子の主要項目の年齢層別平均値および標準偏差」年齢区分16～19を表3に示し、今回の調査対象者（平均年齢19）と比較した。ほとんど同じ値であるが今回の調査対象者のほうが、身長で1.4cmとバスト1.6cm大きく、ウエストとヒップが共に0.4cm小さい体型であった。

表2. 身体計測寸法（単位cm：体重kg）

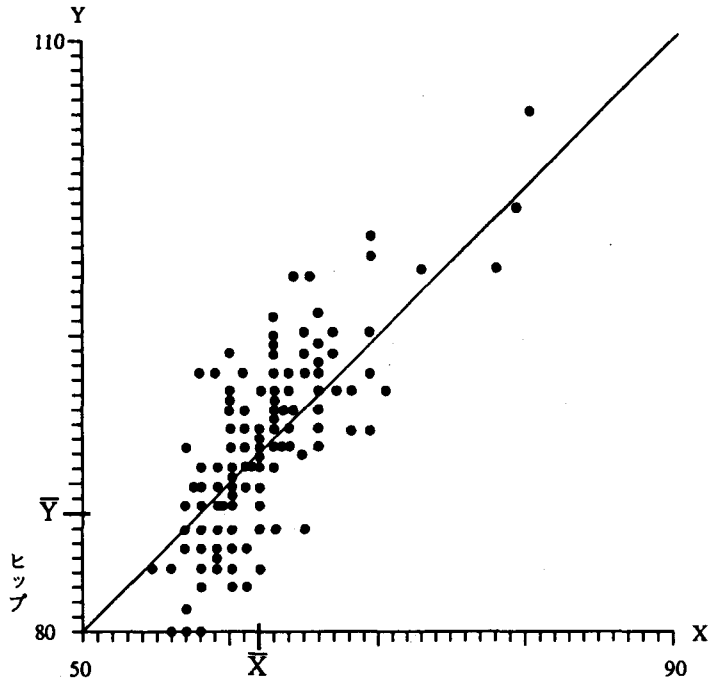
項目	Mean	S.D.	Min	Max
身長	157.8	4.8	146.0	172.0
バスト	82.9	4.4	73.0	105.0
ウエスト	62.0	3.7	54.5	83.0
ヒップ	88.1	4.1	80.0	106.0
体重	49.6	5.8	38.0	76.0

表3. 成人女子の主要項目の年齢層別平均値及び標準偏差（16～19才）

項目	Mean	S.D.
身長	156.36	3.93
バスト	81.25	4.85
ウエスト	62.37	4.04
ヒップ	88.54	4.37

タイトスカートはウエストとヒップが基本身体寸法となるので、この2項目の相関を求め図2に示した。相関係数は0.68とやや高い相関を示している。

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究



ウエスト

相関係数は .67697

回帰直線の方程式は  $Y = .730688 X + 43.4465$

図2. ウエストとヒップの相関

3-3 衣服寸法

着衣しているタイトスカートの計測結果は表4に示す通りである。裾回りとスカート丈に標準偏差は高くバラツキがみられた。また、平均値においてスカート丈は前丈が0.4cm長く、幅には前後差が0.5cm程度でほとんど同じである。

表4. スカートの計測寸法

No	項目	Mean	S.D.	Min	Max
1	ウエスト回り	64.0	4.3	56.0	80.0
2	ヒップ回り	92.9	4.3	82.0	106.0
3	裾回り	92.8	7.9	80.0	144.0
4	前ウエスト幅	32.7	3.3	26.0	42.0
5	前ヒップ幅	46.4	3.1	32.0	59.0
6	前裾幅	46.0	3.5	32.5	66.0
7	前スカート丈	52.1	6.3	30.0	78.0
8	後ウエスト幅	32.3	3.5	24.5	39.0
9	後ヒップ幅	46.4	2.6	37.0	57.0
10	後裾幅	45.4	3.7	33.0	66.0
11	後スカート丈	51.7	6.6	30.0	78.0

### 3-4 表示の現状

スカートのサイズ表示、組成表示、取扱い絵表示、その他の表示の有無を調べた。その結果、サイズ表示については94.2%、法定表示の組成表示と取扱い絵表示は100%の表示があった。その他の表示については、洗濯上の注意表示など5.5%あった。

今回はサイズ表示についてのみ報告する。

サイズ表示の現状については、図3に示す通りである。成人女子用衣料のサイズJIS-L-4005-1985<sup>2)</sup>にもとづけば「フィット性を必要とするスカート類 表9」によるウエストとヒップの二元単数表示が56.5%と約半数を占めている。次に多いのがフィット性をあまり必要としないスカート類「ウエストの着用範囲が狭く、単数表示の場合 表10」によるウエストの表示が12.9%と、また、「ウエストの着用範囲が広く、範囲表示の場合 表11」によるS・M・Lなどとウエストの範囲が表示されているものが19.6%であった。号数表示は5.1%あり、全くサイズ表示のないものが5.9%あった。

成人女子衣料サイズJIS-L-4005-1985では、スカート類についてはフィット性を必要とするものと、必要としないものについて、それぞれサイズの種類、および呼び方が定められている。タイトスカートの場合は、フィット性を必要とするものに類し、基本身体寸法のウエストとヒップが必要とされ、サイズの呼び方は、ウエストとヒップの数字を組み合わせ、例えば(63—90)のように表示されている。今回の調査で、このサイズの種類、および呼び方によって表示されていたものが56.5%あり、その中でもJIS-L-4005-1980<sup>3)</sup>によるもの24.5%と、JIS-L-4005-1985によるもの75.5%であった。24.5%が旧表示であり、JISが改正されていても表示は改められていないのか、着用年数が永いものなのか今回の調査では購入年月を調べていないためどちらともいえない。

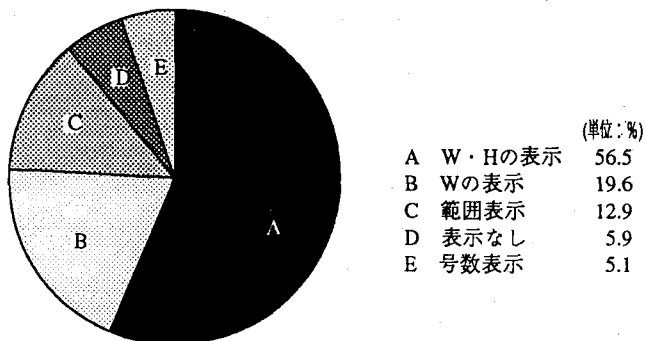


図3. 表示の現状

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

スカート丈が表示されていたものは68.3%であった。ウエストとヒップの二元単数表示に丈が加わったものが全体の50.6%あり、ウエストと丈の表示が10.3%、範囲表示や号数表示に丈の表示があったもの7.4%である。スカート丈の表示に関してJISにおいては流行や個人的な好みによって依存するので規格では定められていない。しかし、消費者が購入の目安として実寸を表示してほしいという要望が多いので、追加情報として表示することが望ましいとされている。

3-5 サイズ表示の方法と適合感

表示方法別の着衣評価、ウエストとヒップのゆるみについての適合感を比較したのが、図4-1と図4-2である。表示方法別として「ウエストとヒップの二元単数表示」「ウエスト表示」「S・M・L表示とウエストとヒップの範囲を表示したもの」「号数表示」「表示なし」の5つに分類した。着衣評価はウエストとヒップのゆるみに関して「非常にゆるい」「ややゆるい」「ちょうど良い」「ややきつい」「非常にきつい」の5段階評価によるものである。ウエストでは約40%の者がゆるめのものを着用しており「ややゆるい」か「ちょうど良い」が約80%を占めている。ヒップでは「ちょうど良い」と答えている者がやや多く、タイトスカートの場合ヒップに合わせて購入する者が多いことがうかがわれる。また、ウエストに比べヒップでは、ゆるみの少ないものを着用している。号数表示や表示なしの該当者は少ないが、表示方法による差はさほどみられない。このことは衣服の場合、表示よりも試着をしてから購入するといったケースが多く、衣服購入時の特殊性がここにみられる。

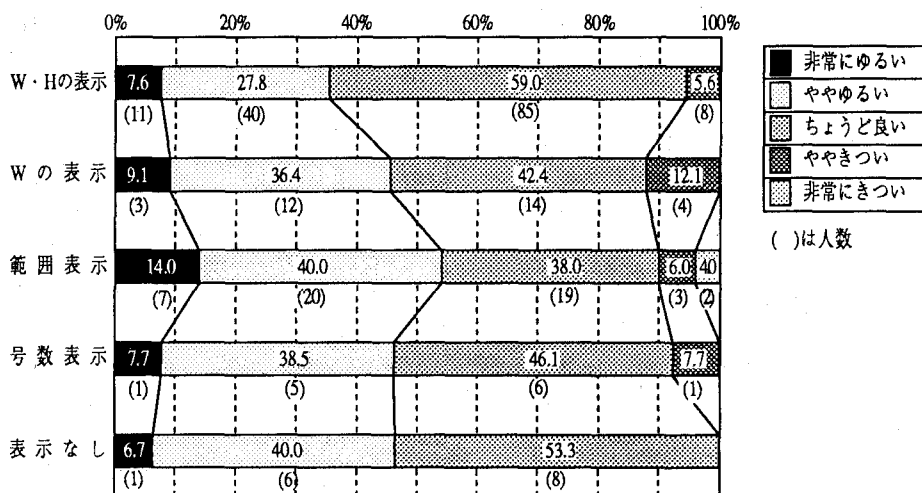


図4-1. 表示の方法と適合感 (ウエスト)

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

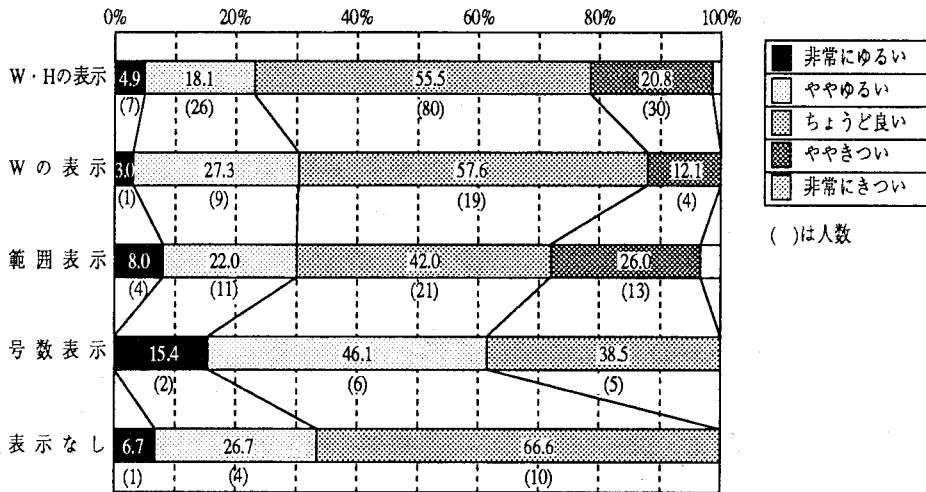


図4-2. 表示の方法と適合感（ヒップ）

3-6 着衣評価

今回計測したスカートを着用し、11項目について5段階評価をおこなった結果を図5に示した。

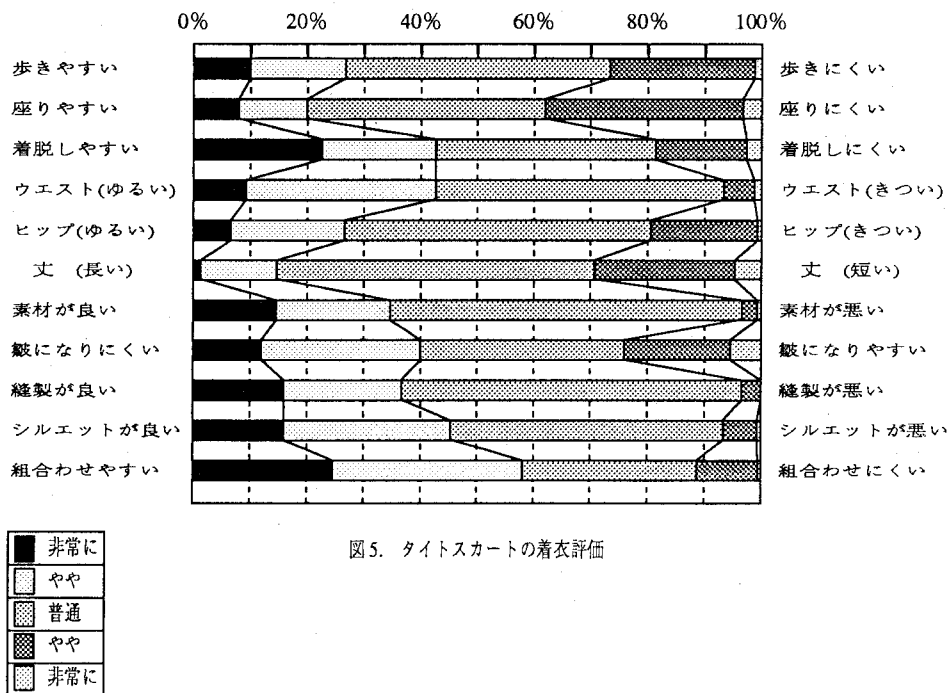


図5. タイトスカートの着衣評価

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

「歩きやすさ」に関しては、さほど抵抗感がみられない。「座る」といった動作に対しては、「座りにくい」「やや座りにくい」が約40%を占めており、タイトスカートを着衣した時の座る動作にやや抵抗感がうかがわれる。「着脱」に関しては容易であるとみられる。サイズに関して、ウエストではゆるみが多いと感じている者が42.8%、少ないと感じている者はわずか6%であり、ゆるみが多いと感じている者のほうが多くみられた。ヒップではゆるみが多いと感じている者が26%と、逆にゆるみが少ないと感じている者も19.5%いる。また、丈に関しては短いとと感じている者が29%、長いが約15%である。丈については流行や個人の好みで評価基準が変わると考えられる。素材と縫製に関しては共に同じような評価をしており、約60%が「普通」としている。皺に関しては41%が皺になりにくいとしており、皺になりやすいが23%である。タイトスカートの性格上、皺になりにくい素材を選んでいられると考えられる。シルエットに関しては「悪い」とみているものが7%で、まず満足度は高いとみてよい。組み合わせに関しては58%が組み合わせやすいとしており、タイトスカートのシンプルなデザインに対し、他の衣服との組み合わせによる着装効果を楽しんでいることがうかがえる。

次に、着衣評価項目において、ウエストとヒップ、および、素材と縫製についてクロス集計をおこなった結果を図6-1、図6-2に示した。

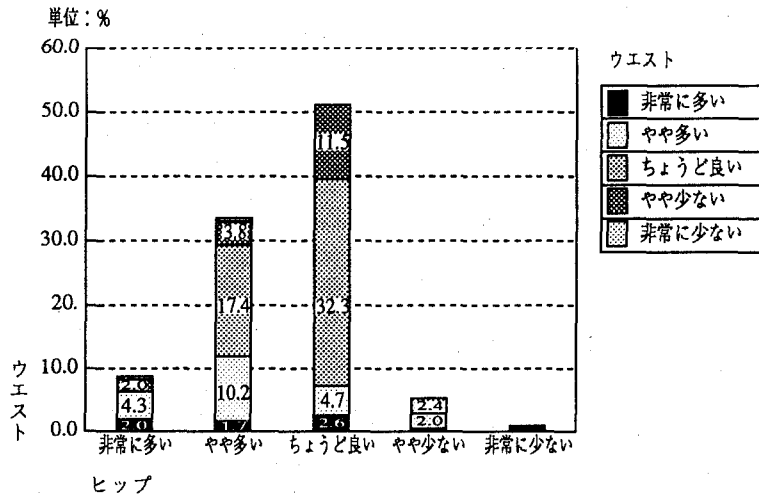


図6-1. ウエストとヒップのゆるみ (クロス集計)

ウエストとヒップのゆるみについては、ウエスト・ヒップ共に「ちょうど良い」が全体の32.3%ある。ウエストはちょうど良いが、ヒップのゆるみが「やや多い」が10.2%、「非常に多い」が1.7%あった。また、ヒップはちょうど良いが、ウエストのゆるみが「やや少ない」が11.5%、逆にゆるみが「やや多い」が4.7%あり、「非常に多い」が2.6%あった。ウエストに合わせるとヒップに合わなかったり、ヒップに合わせてウエストが合わないといった現象がみられる。



身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

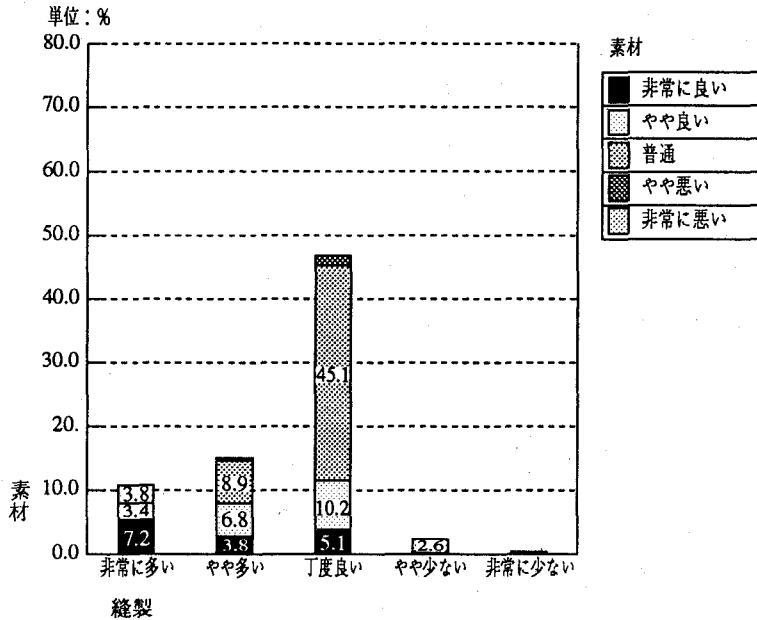


図6-2. 素材と縫製 (クロス集計)

素材と縫製とのクロス集計では、素材、縫製とも普通としている者が45.1%であり、素材が非常に良いものは縫製も良いという傾向にある。

3-7 身体寸法と衣服寸法

身体寸法に対して、どの程度のゆりみのあるものを着衣しているのか、現状把握のために着衣スカート寸法（衣服寸法）と身体計測寸法の差をウエストとヒップについて求め出現率を示したのが、図7-1と図7-2である。

身体寸法と衣服寸法の差は平均値ではウエストが2cmで、ヒップが4.8cmであった。ウエストにおいては身体寸法と衣服寸法が同じものが21.9%、衣服寸法が1cm大きいものが15.9%、2cm大きいものが17.5%あり、0～4cmが91.4%の出現率であった。「タイトスカートにおけるウエストとヒップのゆりみ」について、石毛氏<sup>4)</sup>はウエストの場合、生理機能的な面や、外観上からウエストのゆりみ分量は約1cmが適当とされている。また、その他、身体寸法より衣服寸法が1～3cm小さいものが7.6%あり、衣服寸法の方が5～6cm大きいものが11.2%あった。この大きいウエスト寸法には、今回の調査時期に流行していたハイウエストでウエストベルトのついていないものが13.2%あり、このようなデザインのウエスト計測に誤差ができたのではないかと考えられる。

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

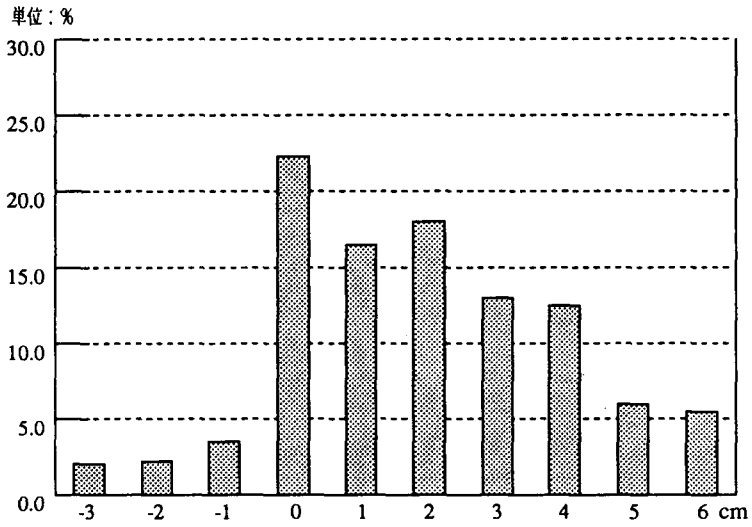


図 7-1. 衣服計測寸法と身体計測寸法の差の出現率 (ウエスト)

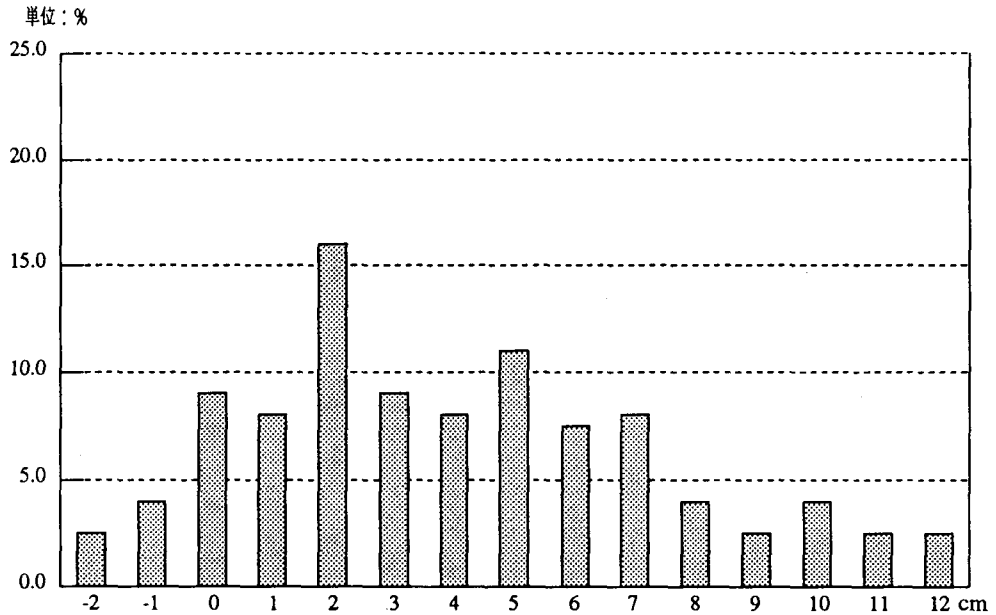


図 7-2. 衣服計測寸法と身体計測寸法の差の出現率 (ヒップ)

ヒップについては衣服寸法と身体寸法の差は、-2～12cmまで幅広く分散した。「タイトスカートにおけるウエストとヒップのゆるみ」について石毛氏によればヒップでは地質の厚さにより、ゆるみ分量は4～6cmが適当であるとしている。そこで、ヒップのゆるみとして適当な範囲4～6cmの出現率は31%であった。

3-8 購入・着衣に関する問題

タイトスカートの購入や着衣に関して不満な点を自由記述方式で回答を求めた。回答率は40.3%であった。結果は表5に示す。

表5. 購入着用に関しての不満点 数字 (%)

	タイトスカート購入着用に関しての不満点	出現率
サイズ (30.5)	ウエストとヒップの差が大きいののでヒップに合わせるとウエストが合わない。	17.7
	大腿部が張っているのでウエストが合わない。	2.0
	ウエストサイズが小さいので合うサイズが少ない。	3.0
	体格が大きいのので合うサイズが少ない。	0.8
	身長が低いので丈が長い。	4.3
	メーカーによって同じサイズでも大きさが違う。	2.7
縫製 (7.1)	ブリーツやパンツの明き止まりが裂けやすい。	4.7
	すそのまつりミシンが連続して解けることがある。	2.0
	裏地が付いていなくて、まつわりつくもの。	0.4
素材 (2.0)	毛玉の出来やすいもの。	0.8
	皺になりやすいもの。	1.2
洗濯 (0.7)	洗濯後の形くずれ。	0.8

不満点は、サイズ・縫製・素材・洗濯といった点にあり、一番多いのがサイズに関するもので30.5%あった。中でも、「ウエストとヒップの差が大きいため体型なので合わない」が最も多かったのでウエストとヒップの差について検討した。

身体計測寸法のウエストとヒップの差を求め、表6に示した。差の間隔はJIS-L-4005-1985と同じ2cmとした。ウエストとヒップの差(H-W)が26~28cmの者の出現率が50.2%あり、半数を占めている。

表6. ウエストとヒップの差の出現率

H-Wの差	出現率 (%)
17~19	0.8
20~22	7.4
23~25	20.8
26~28	50.2
29~31	15.7
32~35	5.1

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

ヒップとウエストの差の大きい者に不適合者が多くみられた。そこで、「JIS-L-4005-1985成人女子用衣料サイズの中でフィット性を必要とするスカート類 表9」に基づいてH-Wの差を求め、不適合者の出現率を示したのが表7である。

表7. JISの範囲と不適合者率

W	H-W																	
	差	%	差	%	差	%	差	%	差	%	差	%	差	%	差	%		
57	23	0	25	3.8	27	11.3	29	1.9	32	1.9								
60	20	0	22	0	24	1.9	26	5.7	28	7.5	30	7.5	32	1.9				
63	19	0	21	1.9	23	1.9	25	3.8	27	17.0	29	13.2						
66	18	0	20	0	22	0	24	0	26	1.9	28	5.7	30	1.9	32	1.9	34	1.9
69	21	0	23	0	25	1.9	28	1.9	30	1.9								
72	16	0	18	0	20	0	22	0	24	0								
76	14	0	16	0	18	0	20	0	22	0								
80	12	0	14	0	16	0	18	0	20	0								
84	14	0	16	0	18	0												

差：「JIS-L-4005-1985 成人女子衣料のサイズ<フィット性を必要とするスカート類 表9>」に基づくH-Wの差

%：不適合者出現率

■：JIS範囲外の不適合者

ウエストが63cmで差が27cmのところに17%、29cmのところに13%の不適合者があり、平均的なウエストのサイズに不適合がみられた。また、H-Wが27cm以上に不適合者率が高く、JISの範囲外にある者が15.2%であった。不適合者の中に、「大腿部が張っているので合わない」という理由をあげる者がある。タイトスカートの場合、このような体型にはヒップ計測だけではなく大腿部を含めた下半身の包囲寸法の計測が必要になる。

今回の調査対象者の包囲寸法は計らなかったが、1991年5月に、40名を対象に方眼紙を用いて包囲寸法を計測し、ヒップの計測寸法と包囲寸法の差を得た。平均値4.3cm、標準偏差5.1cm、最大値9.0cm、最小値1.0cmであり、体型により個人差が大きかった。

タイトスカートに関しては包囲寸法を考慮する必要があり、既製タイトスカートを選ぶ場合もヒップ寸法と同じように下半身の包囲寸法の認識が必要であると考えられる。

#### 4. まとめ

既製タイトスカートに関して、表示の現状、身体寸法と衣服寸法、および、JISサイズとを比較検討した。結果は次の通りである。

1) JIS-L4005-1985に基づけば、タイトスカートの表示は「フィット性を必要とするスカート類、表9」に該当し、ウエストとヒップの二元単数表示である。しかし、この表示方法によるものが56.5%あり、その中でもJIS-L4005-1980によるものが24.5%あった。その他、フィット性をあまり必要としないスカート類の表示としてJISでは、「着用範囲が狭く、単数表示の場合 表10」によるものがあり、これに該当するものが12.9%と、「ウエストの着用範囲が広く、範囲表示の場合 表11」の場合によるものが19.6%あり、号数表示が5.1%、表示なしが5.9%あり、表示方法はさまざまであった。

このような表示方法とウエストとヒップの適合感とでは、表示方法による差は認められなかった。このことは衣服サイズ表示は、既製服選択の目安であって、試着によって各自のサイズが決められているということを裏付けている。

2) 着衣評価項目ウエストとヒップのゆるみについてクロス集計をおこなった結果、ウエストとヒップが共にちょうど良いとしている者が32.3%であった。また、ウエストではゆるみの多いものをヒップではゆるみの少ないものを着用している。

身体計測寸法と衣服計測寸法の差は平均値では、ウエストが2cm、ヒップが4.8cmであった。身体計測寸法と衣服計測寸法の差はウエストにおいては、0のものが21.9%、1cmが15.9%、2cmが17.5%であり、0～4cmで91.4%をしめている。ヒップにおいては-2～12cmと幅広く分散している。タイトスカートのゆるみは地質の差により4～6cmが適当とあり、この範囲にあるものが31%であった。

3) タイトスカートの購入や着衣に関して不満に思っている点はサイズに関してが一番多く、その中でも「ウエストとヒップの差が大きい体型なので合わない」、「大腿部が張っているの合わない」といったサイズの不適合があげられている。

「JIS-L4005-1985 表9」に基づくH-Wと不適合者のH-Wの差において、不適合者の出現率はウエスト63cmで差が27cmのところ17%、29cmに13%あり、平均的なウエストサイズに不適合者がみられた。また、差が27cm以上のものに不適合者が高く、JISの範囲外にある者が15.2%あった。大腿部の張っている体型の者に対してはヒップ寸法よりも、下半身包囲寸法の計測が必要である。なお、体型によるヒップ寸法と包囲寸法については、今後の研究課題としたい。

## 身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

以上の調査結果から、既製衣料サイズの表示は衣服選択上の手段であり、サイズは試着によって決められているのが現状である。既製服はデザインにより不特定多数者の体型をカバーしていることが多い。しかし、タイトスカートのようにデザインの変化が少なくシルエットを重視するようなものでは、個人の体型に合わせることででき得る衣服が望まれる。今後個人の感覚や感性を取り入れた自動計測装置の進歩により、より適合度の高い衣服を購入し得ることと思われる。

本研究にご助言を賜りました京都女子大学山名信子先生、ならびに本調査にご協力いただきました学生諸氏に深謝いたします。

### 引用文献

- 1) JIS-L-4005-1985改正 成人女子用衣料のサイズ規格の解説、JIS衣料サイズ推進協議会
- 2) JIS-L-4005-1985 成人女子用衣料のサイズ、日本工業規格協会
- 3) JIS-L-4005-1980 成人女子用衣料のサイズ、日本工業規格協会
- 4) 石毛フミ子：被服の立体構成（理論編）、同文書院